

(お知らせ)

19.8.24  
統合幕僚監部

## 平成19年度自衛隊統合防災演習(実動演習)について

自衛隊は、下記のとおり平成19年度自衛隊統合防災演習(実動演習)を実施いたします。

### 記

#### 1 目的

東海地域震災発生時等における自衛隊の統合運用による対処要領を関係機関と共同して実践的に演練し、統合防災対処能力の維持・向上を図るとともに、自衛隊東海地震対処計画の検証に資する。

#### 2 主要演練事項

- (1) 初動対処要領及び部隊集中要領
- (2) 統合幕僚監部と統合任務部隊及び関係機関との調整及び連携要領

#### 3 演習概要

##### (1) 区分等

フェーズ1とフェーズ2に区分して実施する。

統合運用体制移行後、2回目の統合防災演習であり、東部方面総監を指揮官とする演習統合任務部隊を編成し、統合運用による震災対処を演練する。

##### (2) 訓練の特徴は、次のとおり。

ア フェーズ1(部隊集中訓練・指揮通信訓練):自衛隊独自の訓練

(ア) 陸上自衛隊各方面隊から陸上部隊及び航空部隊の一部並びに海上自衛隊及び航空自衛隊の一部が東海地域へ集中

(イ) 海上自衛隊輸送艦(LCAC搭載)及び航空自衛隊輸送機による陸上自衛隊の輸送

(ウ) 災害派遣に必要な人員、物資等の輸送及び集積

(エ) 発災時を想定した命令、指示及び報告要領を指揮通信訓練により演練

イ フェーズ2(総合訓練):政府総合防災訓練及び静岡県・伊豆市総合防災訓練と連携した訓練

(ア) 静岡県・伊豆市総合防災訓練会場における訓練

静岡県各市町が行う総合防災訓練における関係省庁等と連携した負傷者医療救護、漂流者救助等の訓練及び地域住民やボランティアに対する自衛隊が持つ知見等の提供

(1) 局地航空情報提供訓練

陸上自衛隊及び航空自衛隊による大規模震災発災時における安全運航確保のための局地航空情報提供及びレーダー情報提供を演練

(ウ) 広域医療搬送訓練

他省庁、静岡県、自衛隊が参加して、航空自衛隊浜松基地、静浜基地及び静岡県愛鷹公園を域内拠点、広島西空港、航空自衛隊入間基地、陸上自衛隊立川駐屯地及び北宇都宮駐屯地を域外拠点とし、輸送機及び大型ヘリコプターによる広域医療搬送を実施

(I) 広域緊急援助隊及び緊急消防援助隊の輸送機による輸送

a 広島県警広域緊急援助隊

往路：海上自衛隊岩国基地～航空自衛隊浜松基地～静岡県総合防災訓練会場

復路：静岡県総合防災訓練会場～航空自衛隊浜松基地～海上自衛隊岩国基地

b 緊急消防援助隊 福岡県隊

往路：福岡空港～航空自衛隊浜松基地～静岡県総合防訓練会場

復路：静岡県総合防災訓練会場～航空自衛隊浜松基地～福岡空港

#### 4 時 期

(1) フェーズ1：部隊集中訓練・指揮通信訓練

平成19年8月29日(水)～8月31日(金)

(2) フェーズ2：総合訓練

平成19年9月1日(土)

#### 5 実施場所

演習実施部隊等が所在する駐屯地、基地及び静岡県総合防災訓練会場並びに同周辺海空域等

#### 6 統裁官

統合幕僚長

#### 7 参加部隊等

(1) 統合幕僚監部及び情報本部：人員約40名、車両4両

(2) 陸上自衛隊：陸上幕僚監部、北部方面隊、東部方面隊、東部方面隊、中部方面隊、西部方面隊、中央即応集団、通信団、警務隊、情報保全隊、富士学校、航空学校、施設学校、通信学校  
人員約2,000名、車両約540両、航空機約55機

- (3) 海上自衛隊 : 海上幕僚監部、自衛艦隊、横須賀地方隊、教育航空集団、システム通信隊群  
人員約 600 名、車両約 20 両、艦船 5 隻、航空機約 10 機
- (4) 航空自衛隊 : 航空幕僚監部、航空総隊、航空支援集団、航空教育集団、航空システム通信隊  
人員約 400 名、車両約 20 両、航空機約 10 機
- (5) 合計 : 人員約 3,000 名、車両約 580 両、艦船 5 隻、航空機約 75 機

## 8 関係省庁及び地方自治体

内閣府、警察庁、消防庁、海上保安庁、静岡県、伊豆市